

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	有限会社 アムケア	評価実施年月日	平成20年2月1日
評価実施構成員氏名	山家裕行、佐々木よし子、小笠原純子、伊東宏二、千葉葉子、慈道麻衣、渡邊章子、土居秀子		
記録者氏名	山家裕行	記録年月日	平成20年2月12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ゆったり寄り添い 慈しみあって 暮らしていきたい 自分らしく 誇り高く 生きいき」との理念に基づきプランを作り支援を実施している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を居間に掲示し、共有して日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	行事の時や、来訪時など、日常的に「まどベⅡ」を見てもらっている。	○ 運営推進会議などで理解を深めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	管理者や職員は近所の方々と散歩の時や喫茶店を利用した時など気軽に交流している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運動会を見にいたり、公民館の催し物を見にいたり、孤立することなく近所の方々と交流している。	○ 回覧板などを見て、行事にさらに参加したい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ごみ拾いをしましょう、などと計画はしている。また、近所の高齢者の方とも会うたびに交流している。	○ 運営推進会議、行事などを通して、もっと交流できると良い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の実施する意義を理解し、職員全員で取り組んでいる。</p>	○	<p>定期的に評価を実施していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議を行い、まどベⅡを少しずつ知っていただいている。</p>	○	<p>今後は評価の報告や話し合いをしてサービス向上に活かしたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者会議に参加したり、相談があれば役所に行って話し合いの機会がある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>介護職員は頻繁に研修に参加している。学んだことは職場で他の職員に報告している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部の研修に参加したり、勉強会などで話し合い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時ち解約時には、施設長が、日常的には管理者や職員が、入居者や家族が相談や不安を言いやすいように、話しかけや説明をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の方より意見などがあつた時には、申し送りや勉強会、カンファレンスで話し合い、日誌に記録して、できる限り運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月お便りで暮らしぶり、健康状態、金銭管理などを伝えている。健康状態、職員の移動などは随時、来訪時や電話で伝えている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の方より意見などがあつた時には、申し送りや勉強会、カンファレンスで話し合い、日誌に記録して、できる限り運営に反映させている。</p>	○	<p>家族の方には、希望や意見などないか、こちらから聞くように努めている。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>勉強会、カンファレンスは職員が全員集まる会議なので意見交換の機会であり、職員から意見があつた場合には施設長に報告し、できる限り運営に反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員は状況をよく理解し、協力的である。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>配慮をしている。職員が代わる場合には引き継ぎをし、見習い期間を設けて準備を整えている。</p>	○	<p>今後も異動などは、入居者の方のダメージを考え、最小限に抑えたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や学習の機会はできる限り確保することに努めている。人材育成は質の向上、事業の運営にとって重要と認識している。	○	今後も外部研修に積極的に参加したり、勉強会委員を中心とした計画のもとで、職員全員で学習していきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者会議や研修時に交流し、サービスの質を向上させている。	○	まどべ、まどべⅡ内の他のユニットの職員との交流も刺激となっている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	虐待や火事のニュースがあると、我々も率直に心身状態を話し合い悩みを共有して、抱え込まない配慮をしている。忘年会の実施。行事は職員も楽しめるよう工夫している。休憩時間は各ユニットの事務室兼スタッフルームで休むことができる。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は、職員にモチベーションを持って仕事に取り組んでもらいたいと努力や実績を認める声掛け、取り組みに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	何度でも電話やでの相談を受け、納得、安心できるよう、ご本人が馴染める機会を作っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	何度でも電話やでの相談を受け、納得、安心できるよう、ご本人が馴染める機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>緊急に対応すべき支援を見極め、他のサービスを紹介したり、相談にのっている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ご本人と共に見学に来ていただくとともに、他の入居者の方々と交流できるような雰囲気作り、家族が共に過ごしたり、食事をしたり、泊まっていけるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>ご本人のできる事を見極め、一緒に交流しながら行っている。また、入居者の方より、教わることもたくさんあり、支えあう関係が築かれている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>気軽に家族の方が来訪できる雰囲気作りをしている。来訪された時には、ご一緒に交流できるような場面作りをしている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。</p>	<p>家族の方にはまどべⅡでの生活やエピソードをお話したり、逆に相談を受けたりしている。話し合いの連携により、入居者の方との関係がスムーズになっている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>これまで大切にしてきた馴染みの人や場所などの話題を取り上げ、日常の会話にも出てくるような話しかけや場面作りをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気が合う人同士が交流する場面、孤立しがちな人が関わりあえる機会など把握し仲立ちをしたり機会や場面作りを日常的に配慮している。個々に楽しみながら共同生活をも楽しめる雰囲気作りを大切にしている。	○	入居者の方同士の関係を把握し、食事の席の配置や散歩と一緒に歩く人を配慮し、必要に応じて席替え、メンバー替えをする。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	まだべから転居された方に再会する機会を設けた。皆様、懐かしそうに手を握り合っていた。退居後も同じ建物1階のデイサービスを利用されている方と交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の視点で支援している。日頃のコミュニケーションから思いなどを把握してプランにも反映している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人らしい暮らしや尊厳を支えるため、これまでの生活状況の把握に努めている。家族から聞いた情報は記録し、職員全員で共有できるようにしている。	○	入居者の方によって情報量に差があるため、日々情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に観察し、報告し合い、有する力を見極め、総合的に把握するように努めている。情報を共有し、統一したケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の求めていることを把握し、又、職員の気づきを話し合い、本人本位の介護計画になるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的または随時の評価、本人や家族の状況や要望の変化に応じた見直しを行い、現状に適したプランになるよう話し合っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録には身体状況や様子、表情や会話など具体的に記入し、ケアやプランに生かして活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族が集まる拠点になったり、宿泊したり、と要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員を招いて豊平消防署職員の方による避難訓練や救命救急の講習会を行ったり、茶道、陶芸、生け花などボランティアの先生たちに協力、支援してもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険制度は使えないが、訪問理美容、マッサージなど、個々の意向や必要性に応じた社会資源を活用している。家族の方の意向により、話し合いの結果、グループホームからデイサービス利用に転向した方がいる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に、地域包括支援センターの方も参加していただいた。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>まどべⅡの看護師や訪問診療のかかりつけ医、看護師と連携して健康管理、受診、家族への説明などの支援をしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>精神科医の定期往診があり相談しながら適切な対応ができるよう支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師が看護職員として常勤している。些細なことでも、かかりつけ医に気軽に相談している。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>情報交換や相談に努め、早期退院に向けた話し合いをしている。医療機関との連携は密にしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に向けた指針は取り交わしている。緊急時に運ぶ病院の希望を取っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療との連携、介護者のできること、事業所としての体制、家族の協力・理解など、チームとして取り組まなければならない。</p>	○	<p>本人・家族の希望があればホームでの看取りに取り組む準備をしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>リロケーションダメージを最小限にしていく為に情報交換や話し合いをし、環境整備に努めている。馴染みの家具や大切にしているもの、その人らしさの表れているもの(手芸道具、書類、楽器など)などを持ってきて頂く。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に心がけている。本人や家族の誇りを傷つけない、本人が思っている現実を否定しない対応などに配慮している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その方のわかる力に合わせた働きかけをして、日常の場面の中で自己決定したり、選択したり、達成感を感じていただく機会を作っていく工夫をしている。</p>		<p>着る服、買物、レストランにて、座る椅子、メニュー、散歩コース、食事介助時</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>外出、買い物、入浴などの希望には職員の都合を優先しないよう努めている。本人のペースに合わせて、ゆったりとしたケアを心がけている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容・美容の希望があった時や時期を見て訪問美容師に来てもらっている。季節感や生活場面に合ったその人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の希望や力を見極めながら、共に買い物したり、調理したり、味見、盛り付け、後片付けなど、楽しみながら、会話しながら、進んでやってくださる。また、食事が楽しくできるよう話題や雰囲気作りに配慮している。準備や後片付けも利用者の方と職員が一緒になって行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつなどの買い物支援、本人の嗜好に合わせた飲み物など楽しんで頂くよう支援している。アルコール類も本人の希望に合わせている。居室には家族が持ってきた食べ物、飲み物あり、賞味期限などに気をつけている。		行事や記念日などには、ビールなどで乾杯し楽しんでいただく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録を作成し、排泄パターンを把握し、それに基づきトイレ誘導をしている。夜間も時間を見てトイレ誘導している。尿・便の観察をし、水分摂取にも留意している。		入居当時は24時間おむつをしていたが、排泄パターンを把握し、日中はパンツで過ごせるようになった方がいる。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜は家族の来訪が多いことを予想して足浴のみの日となっている。他の曜日で、希望やタイミングに合わせて入浴している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとり就寝時間も違い、日中などでも希望に沿って休息している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割や張り合い、喜びのある暮らしができるよう、存在感が実感できる場面やきっかけ作りを支援している。そのために、日々のアセスメント、情報の共有に努める。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分でお金を持つことの張り合いを職員は理解している。お金を持っていたいという方には持っていただき、お買い物をしたり市場での交流を楽しんでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	戸外で過ごす時間の有益さを職員は理解しており、散歩や買い物などほぼ毎日、外出を支援している。天候や、その方の希望や歩行力に沿って、距離や行き先、手段は夫々である。玄関先のベンチで日向ぼっこだったり、行き先が市場だったり喫茶店だったり、車椅子で散歩だったりしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回、機会を設けている。(平岡梅林公園へお花見、南区の果樹園へさくらんぼ狩り、日帰り温泉旅行、ジャスコでショッピングなど)		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をかける方、手助けの必要な方など、本人の希望に沿って日常的に支援している。荷物が届いた時には必ず電話をし本人にも会話していただく。手紙を書く支援もして相手との良い関係が継続するよう支援する。プライバシーにも配慮する。一緒に切手を買に行ったり、ポストに投函しに行ったりする。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	職員は明るく挨拶をし、利用者の馴染みの方々を大切に思っている。居室でリラックスして過ごしていただいたり、居間で気軽に交流できるような雰囲気心がけ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての外部研修を受け、ユニット勉強会でのテーマにも取り上げ、全職員理解している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体拘束であることを理解している。不意に出ようとされた時にも職員はすぐ共に出掛ける対応が習慣になっており、施錠はしない。外の空気を吸い、歩くことで気持ちが穏やかになる、又、出掛けたいという思いを尊重することにより、心理的圧迫をもたらさないことを、職員は理解している。夜間以外は施錠していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーを守ることは基本的なことであり、その上で利用者の安全や所在や様子の把握に努めている。職員同士で声掛け合い、記録書きをしている時も、調理に入っても、他の方の介助をしても、目配り、気配りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、包丁、火気など注意の必要な物は保管場所、管理方法など取り決めている。又、その方の状況に応じて、本人や家族の了解のもと危険を取り除くよう工夫している。(はさみや家族が持ってくる売薬など)		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じた事故防止対策は勉強会やカンファレンスで共有し取り組んでいる。転倒、窒息、誤薬、行方不明など、ヒヤリハット報告を元に再発防止を話し合い、ケアの改善につなげている。火災は個々の点検意識が大切と話し合った。	○	のどもと過ぎれば・・・に陥らないよう、繰り返し学ぶ機会が必要である。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署との連携で、消防訓練、救急救命法、AEDの使用法の講習を受けている。又、採用時研修として急変時の手当て法を勉強している。	○	講習を受けてもとっさに対応できない。定期的な講習の継続が必要である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員間では話し合っている。運営推進会議のテーマとして地域の方々に参加していただき協力を得られるよう働きかけていく。	○	今後地域の方々の理解と協力を得られるような定期的な働きかけを継続したい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ヒヤリハットの内容や予測されるリスクについて電話や訪問時に説明している。抑圧の無い暮らしを支援するために家族と共に対策を話し合い了解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定時と随時のバイタルチェック、表情や声や様子、排泄状況などの引継ぎ、観察を徹底している。異変に気づいたときには速やかに情報を共有し、速やかに対応するよう努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の作用や用法について理解している。個人記録簿にファイルしてあるので、随時確認できる。一人一人支援の方法が違うことや、副作用による症状の観察など職員間で知識と情報を共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘が及ぼす影響を理解しており、原因を探り予防に努めている。水分摂取量の記録や体操や散歩、笑うことなどの活性の大切さを心得て、対応を工夫している。又、入浴時に腹部マッサージを行うなど個別対応もしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や、水分摂取量をチェックしたり、一人ひとりの状態に応じた量など配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修や勉強会で学習したり、手洗い、ポリ手袋の使用などを欠かさないでいる。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所などいつも清潔に保ち、布巾など1日2回消毒している。毎日買い物に行き、新鮮な食材を使い料理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	1階の玄関先には庭があり、ベンチでくつろぎながら交流できる場所となっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある花を生けたり、ひな人形や、クリスマスツリーなどを飾っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルや椅子の配置に工夫し、気の合う入居者同士で過ごせる場所や、一人でのんびりできる空間がある。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの家具や小物などを持ってきていただき、家族の方が中心となって心地よい空間づくりをしていただいている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏期は冷房を使用せず、窓を開放して風通しを良くする。冬期は1日に数回窓を開け、空気の入替えを行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	建物内は随所に手すりを設置しており、バリアフリーになっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居の方の視線の高さに合わせて表札や標識などを使用している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭仕事ができる環境があり、野菜を作って収穫しては食事に使っている。おしゃべりを楽しむベンチがあるので歩行困難な方も庭仕事する者の姿を見て雰囲気共有できる。一階に地域の方と触れ合える喫茶店があり、天気の悪い時も外出しやすく、メニューを選んだり、会話を楽しむことができる。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ゆったり寄り添い～の理念に基づき、散歩や家事、会話など入居者の方と楽しんでいます。また冬期でも暖かい服装に身支度して、毎日の散歩を日課とし、皆さんお元気です。食事も季節感のあるメニューを心がけており、職員も一緒になって、おいしく食べています。行事も大切にしており、地域の方々や家族の方々もお誘いして開かれた「まどべⅡ」を目指しています。